



もちづき よしまさ
望月 芳将
(つなぐ)

企 画
教 育



関係人口、自治体としての関わり方について

問 休日に富士宮市を訪れ過ごす人が増えてい
ると感じる。このまま増えると行政コストも増
えるのではないか。

部長 ごみ処理、インフラ維持、救急医療体制
と一定の行政コストが上がると想定している。
一方で、市内消費や担い手、働き手の確保、ふ
るさと納税の増加と言ったメリットもある。コ
ストと税収等のバランスを見極め、関係人口を
増やし地域の活力向上につなげたい。

意見 二拠点居住が進むと住民税
の在り方も変化していくことも必
要ではないかと考える。



(仮称) 富士宮市立郷土史博物館について

問 説明会やパブリックコメントを行った結果
について率直な感想は。

部長 歴史文化を守ることについては一定の理
解はされていると感じた。博物館整備を反対す
る声として、税金を投入することや、施設を新
設すること、また空いている公共施設の活用な
どがあり、賛成する声の中では場所の問題や、
しっかりお金をかけてよいものを作ってほしい
との意見があった。いただいた意見を一つ一つ
検討し計画に反映される必要があるものは反映
していく。

問 説明会に数回出席し、色々な意見を拝聴し
た。特に気になった意見として、この計画が理
念や目的を具現化していないとの指摘があっ
た。本事業は市民から納得と共感が得られてい
ないように思える。

市長 郷土史博物館の庁内連絡会でもう一度
練り直してやってい
きたいと思っている。
市長という立場で何
とかして進めたいと
意欲を持っている。



うすい ゆきこ
臼井 由紀子
(つなぐ)

教 育
保健福祉



「ラーケーション※3」について

問 富士宮市としてどのように認識し、検討し
ているか。

教育長 ラーニングとバケーションを組み合わせ
た新しい学び方、休み方のこと。できるだけ早い
時期に積極的に
導入できればと
考える。先進事
例を参考に調査
研究を始めたこ
ろ。当市に合っ
た制度設計につ
いても検討する。



生成AIで作成

問 学校教育と地域資源を結びつけた学びにつ
いては。

教育長 例えば富士山学習で探求したいことを

保護者と一緒に学んだり、11月の富士宮まつ
りのおはやしに親子で参加したり、当市ならで
はの地域性を生かした活用を考えている。

問 テーマパークへ行くことをどう考えるか。

教育長 遊びと学びとの境界線は難しいが、そ
こで例えばキャストのおもてなしの精神を学ぶ
計画を、しっかりとこどもが立ててそれに基づ
いて体験をする、探求活動をするのであれば
ラーケーションとして成立する。どこへ行くの
かというよりもどういう学びをするのかという
ことが大事。

居場所づくりの現状と今後について

問 居場所づくりによって重層的支援事業にお
ける参加支援につながった人数は。

部長 事業開始した令和6年度から7年度の
実績からは相談人数が27人。このうち重層的
支援会議として扱った人数が13人。参加支援
で居場所につながった人は5人。居場所につ
ながっていない人についても支援を継続してい
る。